

南三陸大粒ぶどう協議会栽培暦（大粒系品種 雨よけ・無核化栽培）1/4 枚目

栽培要領に基づき、1房400～600g程度の房重となるような栽培方法を記載しています

作成：令和8年3月23日／南三陸大粒ぶどう協議会

時期	生育ステージ	作業	内容						
2月～3月	休眠期	病虫害対策	前年の房、巻きひげは病虫害の発生源になるため除去し、粗皮削りを行う。						
3月		かん水	水不足は発芽遅れ、不揃いを招くため、土が乾燥しない程度にかん水をする。						
3月中旬～下旬	樹液流動開始	芽傷処理	発芽促進のため、 主枝延長枝の基部から3分の2の芽 に対して、ノコギリ、せん定枝ばさみ等で芽の先（先端方向）5mmの位置に傷を入れる。 						
4月中旬～下旬		ビニール被覆開始							
5月上旬	展葉5枚頃	芽かき	極端に強い芽や弱い芽をかきとり、1芽座につき2芽を目安に残す。 ※誘引時の欠損を考慮して多めに残してもよい						
5月中旬～6月上旬	展葉9枚頃	新梢誘引	<ul style="list-style-type: none"> ・時期が早いと折れやすいので注意する。折れそうな場合は捻枝※する。 ・主枝と直角に誘引し、新梢同士が交差しないようにする。 ・新梢数目安：主枝1m当たり10本（片側5本） ※捻枝：1～2節目と2～3節目を指で抑えて、節の間をねじる。  長野県「ナガノパープル栽培マニュアル(改訂第6版)」より						
5月下旬～6月上旬	開花始め	摘心	果粒肥大促進と着粒安定のため、新梢先端の展開していない葉（500円玉より小さい葉）を摘む。 ※生育の悪い新梢（展葉10枚以下）は摘心しない。						
		最終着房数の算出	1樹当たりの最終着房数を算出する。 ○適正な着房数の目安 主枝1m（新梢10本）当たり7房 ⇒ 4新梢に3房くらい <table border="1" data-bbox="1053 1187 1500 1299"> <tr> <td>総主枝長</td> <td>（主枝1m当たり7房）</td> <td>最終着房数</td> </tr> <tr> <td>m</td> <td>× 7房</td> <td>= 房</td> </tr> </table>	総主枝長	（主枝1m当たり7房）	最終着房数	m	× 7房	= 房
		総主枝長	（主枝1m当たり7房）	最終着房数					
		m	× 7房	= 房					
種なし率向上処理	ジベレリン処理だけでは種が残りやすいため、 アグレプト液剤（1,000倍、満開予定日14日前から開花始期） を噴霧器やハンドスプレー等で花穂に散布する。 								
花穂整形	<ul style="list-style-type: none"> ・花穂先端3.5～4cm（開花始めの場合）を目安に残す。 ・最終着房数の1.5倍くらいの花穂（主枝1m当たり10～12花穂くらい）を整形し、残りは落とす。 ※形の良い花穂から整形し、形の悪い花穂を優先して落とす。  上部の支梗2つはジベレリン処理の目印として残 先端3.5～4cm（3段または4段） 宮城県「新技術を導入したシャインマスカット栽培マニュアル」より引用（一部修正）								


●生育時期は南三陸町のハウス栽培シャインマスカットの平年値を参考にしています。品種に応じて適期に作業を行うようにしてください。

●ジベレリン、フルメット液剤、アグレプト液剤等の薬剤や農薬散布の際は、必ず農薬登録を確認の上、使用してください。

南三陸大粒ぶどう協議会栽培暦（大粒系品種 雨よけ・無核化栽培）2/4 枚目

栽培要領に基づき、1房400～600g程度の房重となるような栽培方法を記載しています

作成：令和8年3月23日／南三陸大粒ぶどう協議会

時期	生育ステージ	作業	内容
6月上旬 ～中旬	満開期	ジベレリン処理 1回目 種なし・果粒肥大促進	<ul style="list-style-type: none"> ・満開～満開3日後（花穂先端まで咲いた時）に花穂をジベレリン25ppmに浸漬する。 ・果粒肥大促進、着粒安定のため、フルメット液剤2～5ppmを加用してもよい。 ・薬剤をゆっくり浸透させるため、早朝や夕方などの涼しい時間に行う。 ・開花初めまでにアグレプト液剤を散布できなかった場合は、ジベレリンにアグレプト液剤1,000倍液を加用する。 <p>※処理時期が早いと、軸の湾曲やショットベリー（小さく硬い果粒）が多くなる。 ※3枚目を参照のこと。</p>
6月中旬 ～下旬 ※ジベ処理 1回目から 10～15日後	幼果期	ジベレリン処理2回目 果粒肥大促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ジベレリン処理1回目から10～15日後に果房をジベレリン25ppmに浸漬する。 ・薬液の乾きが悪いと薬害（ジベ焼け）が出るので、薬液が乾きやすい日中に行い、浸漬後は余分な薬液を振るい落とす。
6月下旬 ～7月中旬	果粒肥大期	摘房	<ul style="list-style-type: none"> ・ジベ処理2回目から5日後を目安に、最終着房数くらいになるように余分な房を落とす。果粒肥大、糖度上昇、着色向上のため、適正着房数は必ず守る。 ・形が悪い房、肥大不良の房を優先して落とす。シャインマスカットでは1新梢2房利用も活用する。
		摘粒	<ul style="list-style-type: none"> ・ジベ処理2回目後を目安に行う。 ・最初に、軸長8cm程度（支梗13～15段程度）になるように、支梗を切り下げて調整する。 ・1房35～40粒となるように、余分な果粒を落とす。 ・内向き、変形、小粒の果粒を優先して落とす。 ・※着色の悪い園地や品種では、粒数が多いと着色不良や裂果が助長されるため、注意する。  <p>最上段の上向き果は残す。 最上段の支梗 中段の支梗 最下段の支梗 4～5粒 2～3粒 2粒</p>
		副梢管理 ※満開50日後くらいまで	<ul style="list-style-type: none"> ・果粒肥大促進のため、満開50日後くらいまでは繰り返しこまめに行う。 ・先端の副梢は1.5m程度で摘心する。房より基部の副梢は葉2～3枚、房より先端の副梢は1枚残して摘心する。 ・赤・黒系の品種では、着色向上のため房に光が届くように管理する。
		袋掛け	<ul style="list-style-type: none"> ・摘粒が終わり次第、袋掛けを行う。 ・最終着房数分の袋を準備し、形の良い房から袋を掛けていく。 ・シャインマスカットでは有色袋（緑、青等）の使用により、果皮の黄化、かすり症の発生を抑制できる。※白色袋よりも収穫時期が遅くなることに注意する。 ・直接房に日光が当たる場合は、日焼け防止のためにカサをかける。
7月下旬頃 ～	果粒軟化期 以降	かん水	<ul style="list-style-type: none"> ・果粒軟化期以降に極端に土壤水分が変化すると、裂果が生じやすい。 ・土壤が乾燥しすぎないように、適度にかん水を行う。
品種ごと 収穫時期	収穫期	収穫	<ul style="list-style-type: none"> ・食味（十分な甘み、酸味の抜け、青臭くないか）、果皮色、糖度などを確認し、適期に収穫する。
11月	落葉期	土づくり・元肥	<ul style="list-style-type: none"> ・窒素、リン、カリの3要素を含み、窒素がゆっくり効くような肥料を施用する。 ・※樹勢が強い場合は窒素の施用を控える
12月 ～1月	休眠期	せん定	1月いっぱいを目前に、樹液流動前にはせん定を完了させる。
2月 ～4月		せん定枝パイオ炭生成・ 施用	無煙炭化器でせん定枝をパイオ炭に生成し、農地に施用する。

●生育時期は南三陸町のハウス栽培シャインマスカットの平年値を参考にしています。品種に応じて適期に作業を行うようにしてください。

●ジベレリン、フルメット液剤、アグレプト液剤等の薬剤や農薬散布の際は、必ず農薬登録を確認の上、使用してください。

南三陸大粒ぶどう協議会栽培暦 (大粒系品種 雨よけ・無核化栽培) 3/4 枚目

【植物成長調節剤使用基準】

薬剤	使用目的	使用時期		
		満開予定日14日前 ～開花始期	ジベレリン処理1回目 満開時から満開3日後	ジベレリン処理2回目 満開10～15日後
アグレプト液剤	無種子化	1,000倍 散布	(1,000倍 浸漬) ※開花始期までに散布しなかった場合	—
ジベレリン (粉末又は錠剤)	無種子化 果粒肥大促進	—	25ppm 浸漬 粉末:水2Lに1包 錠剤:水1Lに1錠	25ppm 浸漬
フルメット液剤	着粒安定	—	2～5ppm 浸漬 水2Lに10ml	—

【ジベレリン処理1回目適期の花穂】



花冠(キャップ)が付いている
⇒ 未開花△

開花の判断



花冠(キャップ)が外れている
⇒ 開花○

南三陸大粒ぶどう協議会栽培暦（大粒系品種 雨よけ・無核化栽培）4/4枚目

作成：令和8年3月23日／南三陸大粒ぶどう協議会

◎バイオ炭の作り方

1 せん定枝を用意する



- ・ほ場などにおいてよく乾燥させたせん定枝を用意する。
- ・すぐに消火できるように消火用の水を用意する。

2 準備



- ・火災の心配のない広く平らな場所に炭化器を設置し、底部の隙間から空気が入らないように、地面に押しつけねじりながら設置する。
- ・着火剤として、段ボールや樹皮等、燃えやすいものを用意する。

3 着火・炭化開始



- ・火を付け、炎があがったら、少しずつせん定枝を入れていく。
- ・一度に多くのせん定枝を導入すると火力が下がり、煙が生じる。

4 炭化中



- ・火力が上がったら、炭化したせん定枝が容器の8分目に達するまで連続的に投入する。
- ・炎が見えなくなるまで待つ。炎が出ている部分は未炭化の部分。

5 水をかけて消火



- ・炎が見えなくなったら、水をかけて消火する。

6 蓋をして丸一日放置



- ・炭化器自体に蓋をして、丸一日放置し全体が冷たくなるまで完全に消化する。

7 炭化完了



8 農地へ施用



◎バイオ炭を作る時の注意点

- ・風のない日に、複数人で実施する。
- ・事前に消防署に届出書を提出する。

◎電動せん定はさみの省力化について

導入前と導入後の作業時間及び作業負担の比較

	時期	作業	1本当たり作業時間(分)	作業の負担度合い
導入前	R7.1~2	せん定	133(55~360)	10
導入後	R8.1~2	せん定	110(30~360)	6.4(3~9)

- ・樹1本当たり作業時間は、導入前と比べて、平均で83%に減少した。
- ・作業の負担度合いは、導入前と比べて、平均で3割強負担が軽減された。

※1 作業者5人、19本の樹で検証。

※2 品種は、シャインマスカットの他、藤稔、ピオーネ、ゴルビー、ナガノパープル等

※3 作業の負担度合いは、作業の緊張度合いや身体的負担の度合いを10段階で評価

(従前と同じ=10、負担の重さ9~1、数字が小さくなるほど負担が軽減、作業者の主観に基づいて評価)